



☆育てたいこと

3歳児

- ・気の合う友達と親しみ、一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・思ったことや見たことを教師や友達に表現しようとする。

4歳児

- ・友達と一緒に遊ぶ中で、感じたことや考えたことを表現する。
- ・冬が来たことに気づき、身近な冬支度の様子に関心をもつ。

5歳児

- ・友達と相談したり協力したりして遊びを創り出す楽しさを味わう。
- ・冬の訪れを感じながら身近な自然に興味、関心をもち積極的に関わる。

戦争の反対

みなさんならどう答えますか？「戦争の反対は何だと思えますか？」先日の※ESD・SDGsの講和で講師先生の質問に水上先生があてられました。とっさに聞かれ「みんなが幸せなこと」と瞬時に答えていました。講師先生は「ほお〜」と感心されていました。横で私は拍手を送っていました。「戦争がない世界だけではいけないのです。大人も子どもも世界中みんなです。」と強く話されました。「どうして挨拶をされたら挨拶するのか分かりますか？挨拶は平和への第一歩です。もし挨拶したのにされなかったらモヤモヤするでしょ。反対に挨拶をして返されたら幸せな気持ちになる。そこから小さな人の争いが始まってしまうのです。」と教わりました。トイレのスリッパがグチャグチャになっている事、給食でお代わりのパンがあと1つしかなかった事も、みんなが乗りたいのに3台しかないスクーターをずっと乗っていたい事も、1番争いすることも日常的に子どもたちにとって真剣そのものの日々です。この幼児期に考える大切な事だと ESD の教えを幼稚園の子どもたちに置き換えて聞いていました。叱って(戦って)出来ることは本当に出来た(解決した)とは言えないからです。トイレのスリッパに動物の印を付け、すのこにも同じ動物を貼り、床には丁度いい大きさの枠を書きました。すると劇的に揃える姿がありました。給食のおかわりで、後1つしかパンが残っていない時、「このパン、半分の半分に切って」と提案する子どもがいました。小さな4つのパンができ4人の子どもとハサミでカットした私を幸せにしてくれました。スクーターの片付けについては、片付けられないわけではなく、楽し過ぎてしまう行為だと子どもの知恵を感心せずにはいられません。同じ所に片付けるとみんなに使われては困ると考えたのでしょう。1台のスクーターは遠く離れた場所から見つけられました。子どもたちにとって真剣勝負なのです。犯人捜しはしませんが、みんなの物として考える良い機会ではないかと思い、今は1台ない状態で過ごしています。

「政治では平和は創られない。教育ができることです」と話されました。幼稚園での生活が自分の事だけでなく人のことも考えようとする人権教育の場であることを再認識し、大切な時間を預かっている責任の重さを感じています。“みんなが幸せになるため”の小さな戦いをこの喜志幼稚園で子どもたちと繰り返し続けます。

※持続可能な開発のための教育(ESD)教育の場や学習者の年齢や立場を限定せず、誰もが参加することのできる生涯に行うあらゆる学習を意味する。

園長 辻野 雅子

12月の
未就園児広場の予定

- ☆2歳児ぱんだぐみ (H31.4.2~R2.4.1生まれ) 2日(金)・8日(木)・20日(火)
- ☆プチなかよし (R2.4.2生まれ~) 14日(水) 10:00~育児相談等
- ☆園庭開放 (R2.4.2生まれ~) 1日(木) 9:00~11:30

